

2021.6.18  
一般社団法人  
グリーンコープ共同体  
第四期  
定時社員総会

# 組合員の夢を実現していくために 「グリーンコープの地域」を 創りましょう



▲総会当日のようす

3人の代議員が欠出席しました▶

2021年6月18日、一般社団法人グリーンコープ共同体第四期定時社員総会が開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮して、出席者を少なくし、書面議決書を中心とした総会となりました。総会当日は、全ての議案が賛成多数で可決承認されました。

また総会では、地域で生きる組合員の願いを実現する「グリーンコープの地域」を創っていくことを確認しました。

# 共生の時代

みどりの地球を  
みどりのままで

2021 7 月

発行：一般社団法人グリーンコープ共同体理事会  
編集：共生の時代・編集部  
〒812-8561  
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号  
博多大博通ビルディング3階  
TEL092(481)7923  
FAX092(481)7876  
<https://www.greencoop.or.jp/>

## Contents

一般社団法人 グリーンコープ共同体 第四期定時社員総会報告 2・3・4・5・6・7	
ゼンさんからのレター vol.3	7
一般社団法人 グリーンコープ福祉活動 組合員基金連合会 第三期社員総会報告	8
別紙にて、「放射能汚染と向きあう(放射能測定室より)」を掲載	

連合会総会報告は連合会発行の機関紙(別冊)にて、共済連合会総会報告はホームページにて案内しています。

## お知らせ

2021年度の共生・平和長崎自転車隊の取り組みは、新型コロナウイルスの影響により中止となりました。

グリーンコープは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

## 開会宣言

私たちは、福島第一原発事故後、保養先でグリーンコープと出会いました。その中でグリーンコープの安心・安全な食べものを日常的に食べたいと思うようになり、2019年7月にグリーンコープ商品を購入するための説明会を開催していただき、具体的にグリーンコープ生協ふくしまの設



グリーンコープ生協ふくしま  
理事 武田直美さん

立に向けて検討を始めました。そして、2020年2月に発起人会を作り、賛同者集めに入りました。10月に300人の賛同者署名が集まり、12月に皆様のご協力のもと創立総会を開催することができました。その後2021年5月10日に福島県より設立認可され、5月25日に登記を完了しました。

この間の、様々なご支援に心から感謝します。本日は、グリーンコープの一員になる大切な日に、開会の宣言の使命を受け、感無量です。

## 来賓挨拶



グリーンクラブ  
会長 中尾好伸さん  
※グリーンコープ納入業者の会

コロナ禍に振り回された1年でしたが、その中で私たちはwebコミュニケーションというツールを得ることができました。今や画面や動画共有、ライブ中継にまで進歩し、組合員との学習会・交流会で活かされています。距離があってもwebが可

能にしました。会えなくても伝えるツールが増え、大きな強みになりました。

一方で、リアルも大切にしたいと考えます。リアルに会う中で、談笑からいろいろな絆が生まれることがあります。グリーンコープとグリーンクラブの関係では、それが一番大事だと思います。これからリアルとwebの両方の強みを活かして、皆さんとよりパワフルにすすんでいきたいと思

## 総会に向けて 共同体代表理事挨拶



一般社団法人グリーンコープ共同体代表理事  
グリーンコープ生活協同組合連合会会長  
グリーンコープ共済生活協同組合連合会会長  
一般社団法人グリーンコープ福祉活動組合員基金連合会会長  
熊野千恵美さん

昨年、新型コロナウイルスの感染拡大について収束の見通しも立たず、書面議決による総会として少し寂しさを感じての開催でしたが、今年度はオンラインを併用しての開催の運びとなりました。

一堂に会することはできませんが、画面をとおして、たくさんのご報告を共有いただくことになっています。コロナ禍の中でも、グリーンコープ

運動はとどまることを知らず邁進しています。その勢いを共有できますこと、大変うれしく思います。

グリーンコープが一番大切にしている人と人とのつながり、絆を大切に活動をすすめてきた中で、当初はオンラインについての戸惑いがありました。しかし一方で、「どこからでも参加できる」というメリットを活かされ、機

「第二次『夢ヲかたちに』の実現を、組合員とワーカーズと職員が一丸となり、力強くすすめていきたいと思います。」

閉会議をはじめ学習会、講演会、現地をリアルにつないでの視察・交流会に至るまでオンラインが駆使され、グリーンコープ運動がより多くの方々に伝わるという喜びがあります。

「第二次『夢ヲかたちに』の実現に向けて、単協では、「地域理事会(夢ヲかたちに!理事会)」の新設に向けた討議および具体的な検討が

始まっています。これまで生命を根幹にすすめてきた食べもの運動を超えて、助け合い支え合う共生地域、グリーンコープの地域創りを、ワーカーズ型生協へと進化し続けているグリーンコープにおいて、組合員とワーカーズと職員が一丸となつて力強くすすめていきたいと思います。





2021.6.18  
 一般社団法人  
 グリーンコープ共同体  
**第四期**  
**定時社員総会**  
 第一号議案2020年度活動報告  
 委員会報告

2020年度の共同体組織委員会・福祉委員会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月と5月は開催を中止し、6月から全てオンラインで開催しました。

総会当日は、昨年度の総会で報告できなかった内容も含めて、2年分の委員会報告をしました。



2019年度 平和学習会のようす

共同体 組織委員会

「せっけん」「環境」「平和」「アジアとの連帯」について各生協の取り組みと資料を共有し、活動に活かしました

「せっけん」の良さを伝え、利用を呼びかけました

年に2回取り組む「シヤボン玉月間」では、カタログGREEN14号と31号の特集ページで各委員がおすすめのせっけん

商品を実験しました。新しく登場した「詰替せっけん」や「詰め替せっけん」のチャラシを7月に作成しました。「せっけんハンドブック」の検討では、せっけんの良さを伝える

「環境」「脱原発」「平和」について考え伝えました

商品の回収率を上げるため、リユースびん洗びん業者の(株)田中商店によるオンライン内部学習会を開催し、組合員に伝える

共同体 福祉委員会

グリーンコープの福祉について理解を深めるために学習を行い、各生協の取り組みを共有し、相談・協議しました

オールグリーンコープで学びグリーンコープの福祉への理解を深めました



2019年度 福祉拡大学習会のようす

年間をとおして、8回の内部学習会を行いました。「グリーンコープの地域福祉について」は、地域福祉にどう向き合えばよいかを考えた学習会でした。

「抱樸館について」の学習会では、ホームレスの問題は私たちの社会の構造的な問題でもあることを学びました。

「子どもの居場所づくりとフードサポートについて」では、食事を摂ることも困難な状況にある子どもたちの存在は社会全体の問題であることを知り、子どもたちを応援していきたいと感じました。



熱心に学ぶ参加者のようす

「住んでる街を住みだす」の元になった話について話を先輩組合員に伺いました。当時の組合員が将来を見据え参加型地域福祉に取り組み、グリーンコープの福祉を形作ってきたことに感動しました。「第二次『夢ヲかたちに』」について各生協で話し合う機会が増え、学習を活かしたいと思いました。

視察研修・福祉拡大学習会とおして理解を深めました

グリーンコープの三つの施設「ふくしセンターおひらき」「名島りすの森こども園」「ふくしセンター多の津」をリレー方式でオンライン見学をしました。動画配信してもらいながら一つひとつ説明を聞くことで、理解が深まりました。

福祉拡大学習会として奥田知志さんを講師に迎え、「現代社会の生命に対する認識(やまゆり園の事件)について」を学習しました。やまゆり園の事件は、学校や社会で生産性を優先させてきた結果、暗黙の内に人の命に優劣をつけていることに気づかされた事件でした。多くの参加者と一緒に「生命」について考えることができました。

福祉委員会での学習は、「第二次『夢ヲかたちに』」に役立つヒントが盛りだくさんです。グリーンコープが地域で展開している福祉を学び、各生協の役に立つ委員会として活動の充実をめざします。



農業塾卒業生の岡田功一さんは、福岡県内で「レンコン」「お米」を生産しています

共同体社員からの報告  
 一般社団法人幸福(しあわせ)になる農業塾

グリーンコープの産直生産者をめざす新規就農者の研修に取り組んでいきます

グリーンコープは、生命を育む安心・安全な食べものを生産する仲間を増やしていきたいという思いから、グリーンコープは産直青果生産者と共に「一般社団法人幸福(しあわせ)になる農業塾(以下、農業塾)」を2018年3月に設立しました。

2019年度カタログGREEN36号から、卒業生が栽培した複数の野菜の中から4品目をセレクトしてお届けする「産直農業塾卒業生の野菜セット」の取り扱いを開始しました。

2020年度は、限定数に対して2倍以上の注文をいただきましたが、農業塾卒業生からの出荷率は約25%でした。毎週出荷できないことも多く、卒業生にとって厳しい状況が続いています。特に昨年は、夏場の大雨の被害が出荷状況に影響しました。現在コロナ禍で卒業生の視察を行っていませんが、新型コロナウイルスの感染拡大収束後は、訪問視察や研修などを再開し、サポートを続けていきます。

2018年度は、秋から5人が研修し、その内3人が2019年秋に新規に就農しました。2019年度は、秋からの研修と春(2020年)からの研修開始があり、2020年秋に2人、2021年春に1人が新規に就農しました。就農された方々とは、全員、グリーンコープの産直青果生産者としてお付き合いしています。

2018年度は、秋から5人が研修し、その内3人が2019年秋に新規に就農しました。2019年度は、秋からの研修と春(2020年)からの研修開始があり、2020年秋に2人、2021年春に1人が新規に就農しました。就農された方々とは、全員、グリーンコープの産直青果生産者としてお付き合いしています。

農業を取り巻く環境は、年々、厳しさを増しているように思えます。自然災害の増加や災害の大きさは、私たちの予想の範囲を超えるものになっています。また、農業現場での生産者の高齢化・新規就農者や後継者の不足・耕作放棄地の増加など、様々な問題が年々深刻になっていきます。皆さんと共に、このような流れを何とか食い止め、明るい農業の未来を描けるように力を合わせて頑張っていきます。



2021年度活動方針

グリーンコープは生命(いのち)を一番大切に思い、運動に取り組んできました。近年、世界の多くの企業や団体がSDGsの実践を呼びかけています。SDGsとは、よりよい世界をめざすため、2015年に国連が採択した17の持続可能な開発目標です。SDGsに掲げられた目標は、グリーンコープが大切にしてきた運動そのものでした。引き続き、自信をもってグリーンコープ運動を推進していきます。

また「第二次『夢ヲかたちに』の実現に向けて、各単協では『夢ヲかたちに！理事会』を設置し、具体的な検討が始まっています。グリーンコープの地域づくりを組合員、ワーカーズ、職員が一丸となって、力強くすすめていきます。

一、組合員・グリーンコープ運動の仲間を増やします。

二、労働協同組合・ワーカーズを組合員と連帯するグリーンコープの主体と位置付け、労働協同組合のワーカーを増やします。

三、脱原発社会の実現を目指し、私たちに出来る実践を最大限に取り組みます。

四、生命(いのち)を守り育む「食べもの」を食べて、安心・安全な「食べもの」を守り、より良く育てていきます。

五、「第二地域(生協地域、連帯地域、協同地域、共生地域)」を創り、地域を再生します。

六、四つの共生の願いに基づき取り組みをすすめます。

七、グリーンコープ生協(グリーンコープ連合会とグリーンコープ生協)の経営を一層強化します。

八、各委員会の方針は次の通りです。

(一)組織委員会

(1)せっけんについて年間をとおして取り組んでいきます。

(2)環境問題について考え、単協の活動を支えていきます。

(3)平和の取り組みについて単協の活動を支えていきます。

(4)アジアとの連帯の取り組みについて単協の活動を支えていきます。

(5)これからの取り組みに役立つように学習会を開催します。

(二)福祉委員会

(1)グリーンコープの福祉について、オールグリーンコープで学び、単協の取り組みに活かします。

(2)単協の地域福祉の取り組みがより活性化していくために情報や課題を共有し、相談・協議します。

(3)単協の相談・協議の中で、地域福祉の取り組みを豊かにしていくために視察研修・学習会を行います。

(三)地域福祉委員会

(1)グリーンコープの福祉について、オールグリーンコープで学び、単協の取り組みに活かします。

(2)単協の地域福祉の取り組みがより活性化していくために情報や課題を共有し、相談・協議します。

(3)単協の相談・協議の中で、地域福祉の取り組みを豊かにしていくために視察研修・学習会を行います。

共同体第四期定時社員総会スローガン

組合員の願いを実現していく存在として生き続けていくために、「グリーンコープ運動」を力強く推進し、「グリーンコープ運動」に参加する仲間を増やしていきましょう。

東日本大震災以降、全国各地で発生している自然災害で被災された方々に向けて、生命(いのち)に寄り添ったグリーンコープらしい支援活動を継続していきましょう。また、新型コロナウイルスによる被害についても、感染防止に努めながら、できることを最大限に取り組みでいきましょう。

ワーカーズ型生協とワーカーズ型社会福祉法人に飛躍し、地域と共生するグリーンコープになりましょう。そのために組合員、ワーカーズ・ワーカー、活動組合員を増やし、地域と現場の活力を推進力に、グリーンコープを強化しましょう。

原発、遺伝子組み換え、地球温暖化などの社会的な問題に、生命(いのち)を根幹にすえて、市民とその連帯が主体となつて、できることから解決していきましょう。

民衆交易や互恵のためのアジア民衆基金などの取り組みをとおして連帯・交流すること、

「南と北」「北と北」の共生・連帯をさらにすすめていきましょう。

「地域理事会(夢ヲかたちに！理事会)」を新設し、新しいグリーンコープ地域で生きている人間に合致したグリーンコープに変えていき、「グリーンコープの地域」を創りましょう。

閉会の辞



グリーンコープ生協さか理事長 柳川 晶子さん

グリーンコープ生協がまる生協に続き、グリーンコープ生協ふくしまの皆さんが仲間になりました。取り組みや運動、活動と一緒にやっていくことを本当にうれしく思います。

私たちは常に前へと歩いています。SDGsに取り組み、食べものや自

然、環境、脱原発、平和や福祉、いのちとくらしのことを常に考え、世界のことにも考え活動しています。気候危機、貧困

問題、自然災害など、今年度も何が起るか分かりません。しかし、何が起きてもすぐに行動を起こすグリーンコープがあり、私たちはその組合員です。これからも大切な生命を守るために考え、助け合い、利用拡大をめぐり、元気に生き生きと活動していきましょう。

私たちは常に前へと歩いています。SDGsに取り組み、食べものや自



グリーンコープの友人のみなさんへ vol.3

Letter for Green Co-op April 20, 2021

継続的に学び、未来の世代のために声を上げていきましょう

グリーンコープの理事・役員、すべての組合員の皆さまの活動にいつも心から感謝しています。皆さんが、子供たち、生活困窮者、そして日本と世界中の人々のために共同体を創り、活動されていることは、本当に感動的です。いつの日か、皆さんの子供たちが振り返って、祖父母たちが安心できる食料供給、そして日本や世界の人々がより安全に暮らすことができるために貢献したことを、自分たちの子供たちに話すことでしょ。

最近、私はカリフォルニア州にあるソーク研究所の科学者によるオンライン・トークに参加しました。そこで、ある科学者から、作物の根を遺伝子操作してより多くの炭素を吸収できるようにする10年プロジェクトを数年前から取り組んでいることが紹介されました。その目的は、気候変動を防ぐために今後10年間で年間4~8ギガトンの炭素を吸収するというものです。彼らの目標は、この遺伝子組み換え作物を12億エーカー(5億ヘクタール)の土地に植え付けることです。アメリカの全農地は8億9,600万エーカーしかなく、そのうち有機栽培は約5%です。つまり、目標を達成するためには、米国内のすべての農地を占領し、他の国にも進出しなければならないのです。投資する人、億万長者、そしてアメリカ政府は、きっと彼らが目標を達成するために全力を尽くすはず

講演の最後に、ある人が「すでにこのような炭素を吸収できる自生植物はないのか？」と質問しました。科学者は「I don't know(知りません)」と答えたのです。私は驚愕しました！北海道の農地で有名な肉牛が何世代にもわたって食べているような、既存の多年草について調べて学んでいなかったというのは、とんでもないことです！彼らが、生命に対しての特許と利益を得ることはできないはず！このような甚だしい知識の欠如があるからこそ、私たちは継続的に学び、地元の牧草飼育農家、有機畜産農家をもっと支援しなければなりません。ですから皆さん、レストランやスーパーそして特に学校給食で、遺伝子組み換えではない肉や卵、乳製品を求めよう活動をどうか続けてください。

さらにアメリカでは、新しい検査でベビーフードに高濃度の重金属が含まれていることが分かりました。最も衝撃的だったのは、「オーガニック」のベビーフードに最高レベルの重金属が含まれていたことです。重金属はIQを低下させ、生涯にわたる脳の損傷の原因となります。さらに検査では、ビタミン、米、香辛料などの調味料が最も高いレベル(鉛とヒ素で600~900ppb)の成分を含んでいることもわかりました。メーカーはこのことを知っていながらも、食品を販売し続けていたのです。有機農家は、糞肥料に農薬が残留している

のではないかと疑っています。遺伝子組み換え作物やグリホサートが散布された飼料に依存している高密度家畜飼養経営の施設では、汚染された糞尿肥料を生産しています。グリホサートは、重金属を吸着するキレート剤です。肥料に加えて、灌漑用水がこうした農場からグリホサートや重金属を広い範囲で私たちの飼料作物や食品に運んでいるとしたらどうなるのでしょうか？

今回は悪いニュースばかり書いているように見えるかもしれませんが、でも良いニュースは、私たち母親がこれらのことを知り、声を上げ、説明責任を求めていることです。私たちは今、ベビーフード会社に対する訴訟を支援しています。このような企業の汚職行為が隠されたままであれば、私たちの家族は傷つき続けるでしょう。私たち母親や市民が、未来の世代のために、あえて声を上げることで状況を変えることができるのです。私は、グリーンコープの皆さんが私たちのパートナーであることを本当に嬉しく思っています。

感謝を込めて

ゼン・ハニーカット  
マムズ・アクロス・アメリカ  
訳：大橋 成子

カタログGREEN19号で、ゼンさんの著書「あきらめないUNSTOPPABLE」を企画しています



ゼン ハニーカット Zen Honeycutt さん Moms Across America 創設者・専務理事

米国で遺伝子組み換え反対運動の中心となつて活動するマムズ・アクロス・アメリカ(Moms Across America)の共同創設者、専務理事。